

# 著作権に関する教育の実践事例

長野県上田市立菅平中学校

## 教育活動概要

- a. ねらい ネット時代における著作権を学ばせる。
- b. 内容 著作権とは何かを学んだあと、グーグルによるデジタル化した書籍の全文検索サービスについて考える。

### 「著作権を考える」単元の展開

時	学習問題	学習活動	指導
1	奈良美智さんの酷似作品がインターネットでオークションにかけられた。あなたが売り手の立場、買い手の立場、奈良さんの立場であればどう考えますか。  著作権とは何ですか。	売り手の立場、買い手の立場、奈良さんの立場を考える。  「上戸彩の著作権早わかり」を視聴し、感想を書く。	新聞記事を紹介し、買い手の立場、奈良さんの立場を考えさせる。 気付いたことなどメモをとらせる。 感想を書かせ、発表させる。
2	グーグルによる書籍電子化について記事を読み、作家や出版社にとって困ることは何か、良いことは何か、読者にとってはどうかを考えよう。	グーグルによる書籍電子化について新聞記事、社説を読み、感想を発表する。	新聞記事、社説を紹介する。 それぞれの立場に立って考え、発表する。

第1時 2009年11月4日 奈良美智さん「自分の作品ではない」の信濃毎日新聞記事を読んで

- 奈良美智さんの件でも、酷似作品はやってはいけないことだと思います。本人が良いというのならば、やっても良いかもしれませんが、相手の許可を取らずにやるというのは本人の気持ちも考えてほしいです。これが広まらないうちに止めておくべきことだと思います。身近に著作権があることを意識したほうがいいと思います。
- 著作権がなかったら一生懸命作ったのに他の人に真似されたら嫌だと思う。しかもマンガのようにその作品を自分の物としてやられたら、すごく悲しいことだと思う。自分の知らない間にそういうことになって気付かないかもしれない。だからみんなが気をつけていかなければいけないなと思った。
- ブログとか、他の人がやっているのを見たりすると、マンガのキャラクターの画像が普通に使われていたりするので、そういうのは大丈夫なのかなと考えました。パクリのような行いは、著作権を持っている人にしたなら、すごく嫌なことだと思います。知らなかったからと言ってもやっぱり嫌だと思います。なので私もそういうことに気をつけていけたらいいなと思いました。

「上戸彩の著作権早わかり」を視聴して

- 著作権に関するビデオを見て、色々な事も知ることができた。著作権にはたくさんの種類があってけっこう人が作り出した物についてはほとんど著作権がはたらくのだなと思った。今日はじめて知ったのは、著作隣接権 という権利で、著作物を社会に広める役割をもつ人にも著作権がはたらくという事だ。あと、おどろいたのは、学校とかの昼食中にお昼の放送とかで流すヒット局は流すのは大丈夫だけど、MDやカセットに録音したものを使用するとその時点で著作権の侵害になってしまうことですのですごい複雑なんだなあと思った。
- 僕は学校の放送部長でお昼になんとか曲を流したりしていたけど、それが許されると聞いてホッとしました。ただし、複製の場合はダメなのでこれからの放送委員の人にも知ってもらって、著作権を犯すことのないようにしたいなと思った。

第2時 2009年5月14日の信濃毎日新聞の記事を読む。

「グーグルが行っていることは何ですか」

- ・本の電子化。
- ・インターネットで本が読めるようにすること。

「作家や出版社にとって困っていることは何ですか」

- ・作家の著作権や出版社の経営を脅かす危険。
- ・全部読めてしまったら本がうれなくなってしまう。著作権を侵害されてしまう。
- ・利益が出ない。

「作家や出版社にとって良いことは何ですか」

- ・作品を多くの人に知ってもらえる。
- ・宣伝になる。

「読者にとってはどうですか」

- ・いつでも本が読める。
- ・絶版や貴重な本が読める。
- ・本屋に行く必要がなくなる。
- ・すぐに読める。
- ・読む機会が増える。
- ・本を読まない人からしても、本が身近なものになると思う。

「全米作家協会が審理の延期を要請(9月24日 信濃毎日新聞)の記事を読んでこの記事はどんなことが書かれていますか」

- ・グーグルの本の電子化に意見が寄せられ、延期を要請された。
- ・和解案が修正される。
- ・グーグルの書籍電子化に対する問題点。

生徒の感想

- グーグルが本の電子化をすれば、読者にとっては、より本が身近なものになってよいことだとは思いますが、そのためには著作権の問題などがあるので、慎重にやってほしいと思った。
- グーグルの書籍電子化は読者には、便利で良いかもしれないけど、出版社の人たちや著者の人たちには、利益が上がらなくなってしまうなど、出版社の人は大変だと思った。それぞれの権利を大事にしていけないといけないと思った。
- 著作権の問題が発生してしまうのをインターネットで流そうというのは、なかなか大変なことなんだなと思った。和解したら何を載せてもいいとかそういう問題じゃないのかなと思った。
- 本の電子化が進めばいいなと思うけど、これを実現するには著作権問題や出版社の収入などいろいろなことをクリアしていかなければいけないんだなと思った。電子化もいいけど、やっぱり図書館に行くっていうのもいいなと思った。

### c. 成果と課題（「児童・生徒の変容」を含む）

第1時、奈良美智さんの作品に酷似した絵がネットで競売された。奈良さん自身は出品者へ自分の作品ではないと申し入れ、サイトには奈良さんの作品ではないとの説明が追加された。またオークション側は奈良さんの作品だと断定していないので違反していないという言い分もあり、ネットオークションの問題点を浮き彫りにしている。生徒は「買った人は奈良さんの作品でないことを知って購入したのでいいのではないか」「奈良さんの作品に似ているのでたとえ本人のものではないと説明しても売るのはどうか」と思うなど意見が分かれた。

このあと作品には著作権があることを知ってもらうために「上戸彩の著作権早わかり」を見せた。このDVDは女優やアナウンサーが出演しているので生徒に親しみやすかった。映画制作では様々な人が関わり、権利を持っていることを知ることができた。まだMD、ビデオなど貸し借りには著作権が関係してくること、学校生活でも放送などは著作権に反していないかも気付くことができた。

「著作権を持っている人にしたら、すごく嫌なことだと思います。知らなかったからと言ってもやっぱり嫌だと思います。なので私もそういうことに気をつけていけたらいいなと思いました」とある生徒が述べたように著作権について意識することができた。

第2時のグーグルによる書籍電子化については出版社、作家の立場、読者の立場で考えた。読者の立場からは、便利で良い。絶版が読める。読む機会が増えると言う意見だったが、出版社、作家の立場に立てば著作権や出版社の経営を脅かす危険があると言う意見だった。「グーグルの書籍電子化は読者には、便利で良いかもしれないけど、出版社の人たちや著者の人たちには、利益が上がらなくなってしまうなど、出版社の人は大変だと思った。それぞれの権利を大事にしていかない」とあるように著作権の大切さに気付くことができた。

今後ネット上での著作権の問題が増加すると思われるが、その象徴的な記事を読み、自分はどうか判断するのかを考えられる人になってほしい。

### 使用教材・写真・映像資料等

2009年11月4日 信濃毎日新聞 『奈良美智さん「自分の作品ではない」』の記事

2009年5月14日 信濃毎日新聞 「著作権を損なわぬよう」の記事

2009年9月24日 信濃毎日新聞 「グーグル書籍電子化 全米作家協会など審理の延期を要請」の記事

DVD「上戸彩の著作権早わかり」

コミックでわかる著作権 おじゃる丸

グーグルが本を殺す 飛鳥新社 竹内一正著

「パクリ・盗作」スキャンダル事件史 宝島社